

玉川には 伝統が息づく



平鉞踊り

笛や太鼓の調子に合わせて、笠鉞を先頭に円陣を組み、威勢の良い掛け声と共に踊る平鉞踊りは実りの秋の感謝を象徴する。



浦安の舞

大雷神社と川辺八幡神社で奉納される浦安の舞は、神聖でおごそかな優雅さが漂う。



三匹獅子舞

女獅子・太郎獅子・次郎獅子が主役となる三匹獅子舞は、宮参り、餅つき、居眠り、女獅子うばいなどの数曲で構成される。



笛二名・鉦一名・歌方七〜八人が奏でる曲と歌にあわせて、立ち踊りと座踊りが披露されます。伝えられている曲目は九曲で、歌の終わりに「えこうじようぶつ、なむあみだぶつ」とお囃子がいります。真夏の炎天下、新盆供養の家々を練り歩く静かでおごそかな光景に出会うとき不思議と心打たれるものがあるのは、普段忘れていた日本の原風景を垣間見た気がするからではないでしょうか。

念仏踊りの他にも子どもたちによって伝承されている踊りがあります。北須釜地区に残る三匹獅子舞は、寛永十六年に都々古別神社葺き替えの祭典の際に氏子によって奉納されたことが始まりの勇壮な舞。後世に残そうと北須釜地区で特別な行事のときに演じられています。また「平鉞」という民俗芸能が各地区で明治時代まで数多く残り、鎮守神社に奉納されてきました。現在は秋祭りに小高、竜崎、北須釜、南須釜、山小屋の各地区で踊られるだけとなりましたが、平鉞



を持って踊る姿は、農耕民族として豊穡の秋に氏神様に感謝する祖先を思いおこさせます。
小高地区の大雷神社・秋の祭礼として神社本殿で披露される浦安の舞は、巫女装束に花簪をさした少女たちが鈴を手に持ち、世界の平穏を祈念して、おごそかに舞う優雅なもの。夏休みを迎えた子どもたちにより、毎年、真剣に稽古が行われています。このように玉川には人々の祈りと厚い信仰が育んだ多くの伝統的な踊りが保存されています。万物や神を崇め、先祖の魂を鎮めるさまざまな踊りは、いにしえの人々が残してくれた大切な祈りの文化だと感じるので。

